

## <環境パートナー通信について>

この環境パートナー通信は、会員向けに会議の情報共有を目的として、発行しています。会議の今の活動をご覧いただき、環境活動の参考として下さい。

また、皆さんがお知り合いの方に会議をPRしていただく際の説明資料としてお使いください。

発行：松阪市環境パートナーシップ会議

啓発活動プロジェクト（SDGs）

【事務局】松阪市環境生活部 環境課

TEL：53-4425 FAX：26-4322

E-mail：kan.div@city.matsusaka.mie.jp

HP：https://www.city.matsusaka.mie.jp/

site/kankyo/list85-252.html



環境パートナー通信  
QRコード  
環境パートナー通信

## 緑のカーテンで涼しく過ごしましょう！

夏のCO<sub>2</sub>削減、節電対策として緑のカーテンに取り組んでみませんか？

緑のカーテンは、特に真夏において、植物を建物の外側に生育させることで、建物の温度の上昇を抑えたり、日射を遮ることにより省エネにつなげる手法です。



緑のカーテンに使う植物は、カーテン状に広がる「つる性植物」が適します。

- ・ニガウリ
- ・千成ヒョウタン
- ・ミニカボチャ
- ・アサガオ など



緑のカーテンが  
夏を涼しくしてくれる  
3つの理由

### 2. 葉の蒸散作用で放射熱を抑える

植物は水を吸い上げ、葉から水分を蒸散させます。その時に気化熱を奪うことで葉の温度上昇が抑えられます。緑のカーテンは日陰をつくるだけでなく、室内への放射熱も抑えてくれます。

### 1. 日射の熱エネルギーを約80%もカット！

十分に葉が茂った緑のカーテンは、日射の熱エネルギーの約80%をカットする遮断効果があると言われております。ちなみに、すだれの遮断率は50～60%です。

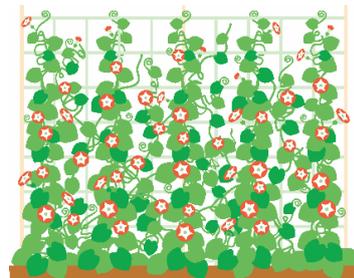
### 3. 家の周囲の表面温度を抑える

強い日射しで表面温度が高くなった窓付近の地面や壁、エアコンの室外機などから熱が放出されるのも暑さの原因。緑のカーテンで多くの部分を日射から遮ることで、放射熱の発生と進入を抑えることができます。

4月23日開催の「緑のカーテン育て方講座」（講師：森川茂幸農学博士）より育て方のポイントをいくつかご紹介します。

## 栽培のコツ

- ・コンテナ栽培が適します（できるだけ大きなコンテナを選ぶようにしてください）。
- ・栽培用の土は、培養土（肥料入り）を用いるのが無難です。
- ・コンテナの置き場所は、必ずネットの内側にします（ネットが絡みやすく、葉がネットの上に繁り、果実は下に垂れて風による実の傷みを軽減できるからです）。
- ・コンテナは、じかに地面に置かず、ブロックなどを敷いてから置くほうがよいです（底の通気や虫の侵入を防ぐことができるからです）。



## 緑のカーテンの一般的な管理

- ・特に、ウリ科の植物を利用する場合は、本葉が6枚ほどになったら摘芯して子蔓（こづる）を伸ばすようにします。
- ・一般的な追肥は、植え付け後2週間目から7～10日に1回、株から少し離れた位置に1株あたり軽く一つまみ（8～10g：化成肥料）を与えます。
- ・緑のカーテンの場合は、まず葉を多く繁らせたいので、初期に咲く花は摘み取るようにします（このころは、追肥はちょっと多めに与えるようにします）。
- ・葉が十分繁ったなら、追肥の量を控えて着果させるようにします。
- ・夏場では、蒸散量が多くなるので、晴れた日には朝夕にコンテナからあふれ出るくらい十分に水を与えます。
- ・土の表面にまで根が張って土が沈んできたら、コンテナに土を足して乾燥を防ぐようにします（こうすると、緑のカーテンが長持ちします）。

摘芯（摘心）とは、親蔓の先端を切ることで、子蔓や孫蔓が元気に成長します。

皆さんも、ぜひ緑のカーテンに取り組んでみませんか？

夏を涼しく過ごす環境にやさしい行動は、緑のカーテンだけではなく、打ち水や室外機への直射日光を避ける、などたくさんあります。ぜひできることから取り組んでみましょう。